

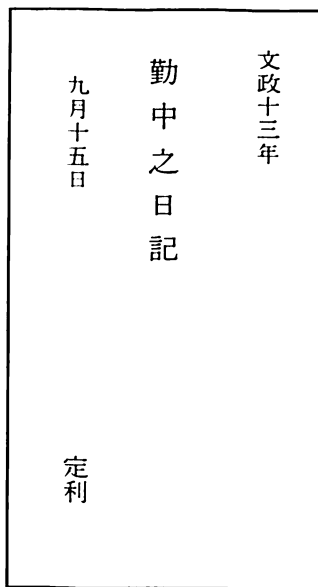
文政（天保期秋田藩桑植立における技術伝播に関する資料（3））

—— 米沢植本文書を中心に ——

高田 勝一郎
橋 秀夫

（一九八七年一〇月三二日受理）

（表紙）



十五日
朝より大雨ニ候得共、庄吉、おみの出足ニ付、品々在所江仕送り物渡遣したり、苗木纏立調方前同断

十六日
苗木纏立調方前同断、右書上
一 壹万七千六百拾本 川尻畑
上中下

内 三千六百六拾本 上 拾文本
三 拾六貫六百文
四 千三百六拾本 中
式 拾六貫百六拾文 六文本

九千四百拾本 下
式 拾七貫四百式拾文 三文木
木 壹万七千六百六拾文
代 九 拾貫百八拾文

一 壹万六百人 惣社脇畑
内 三千本 上 十文本
三 拾貫文 中
三千四百本 中 六文本
式 拾貫四百文
四 千式百本 下 三文木
拾 八貫六百文
木 壹万六百人
代 六 拾四貫文

合百五拾四貫百八拾文

一 壹万六千四百式拾本 佐藤畑
内 三千式百六拾本 上苗木
四 千式百六拾本 中苗木
八 千九百本 下苗木
代 八 拾四貫八百六拾文

御構地

一 三百七貫貳百文 上 三万七千貳拾本 拾文木
 一 百壹貫貳拾八文 中 壹万八千八百八拾本 六文木
 一 六拾六貫百廿文 貳万貳千四拾本
 下三文木

木 七万六千六百四拾本
 代 四百七拾四貫六百四拾文

追廻馬場

一 貳千四百本 惣高
 内 九貫文 上木九百本 拾文木
 三貫九百六拾文 中六百本 六文木
 貳貫五百廿文 下八百四拾本 下三文木
 拾五貫四百八拾文

長沼畑

一 貳千七百四拾本 惣高
 内 三貫六百元 上三百六十本 拾文木
 四貫五百六拾文 中七百六拾本 六文木
 四貫八百六拾文 下千六百廿本 三文木
 拾三貫廿文

桑苗木拝領願出之事

一 五百本 渡辺斧松
 一 八拾本 權助
 一 貳拾本 崑八
 一 貳拾本 東之助

十七日

佐藤与吉郎様苗木纏立二付手配、大塚村彦惣、仙北部江芋剥方指図下り候処、此度御暇乞罷出候由にて対談致候

十八日

御役所詰合

十九日

矢嶋家中小介川龍藏様家来吉治申者飛脚到着、宿新川権助宅にて去夏中談合、産物取立之義御教二付、帰国之節立寄くれ候様頼度旨ニ而罷候二付、明春出府可致由申談遣申候

七つ時洪江様下屋敷桑苗木掘仕舞二付罷越候様申参り、御酒にて御祝儀御座候、右苗木上六千九百拾本、中六千百本、下壹万三千六百四拾本、外伏返し五百七拾本、中百八拾本、下百四拾本、都合貳万七千五百四拾本改申候

廿日

小野岡様下屋敷苗木掘立遣し

廿一日

湊町中野三郎右衛門苗木、上千五百廿本、中千三百貳拾本、下貳千貳百六十本、 \surd 五千百本

廿二日

小野崎様苗木上貳百八拾本、中百九拾本、下三百四拾本、 \surd 八百四拾本

廿三日

扇田より善六婦り候付、荒谷徳藏苗木惣高之事

一 八万五千五百九拾本
 内 三万四千九拾本 上
 壹万貳千六拾本 中
 三万五千四百四拾本 下

廿四日

富田様分百四拾本、上貳百本、中五百本

八百四拾本、代三貫八百式拾文

加鳴屋安兵衛注文留

一白紬 壹疋

代金貳兩三分位

一白縮緬 壹疋

代見合

一白裏紬 壹疋

代金三步

一真麻上下地 壹貫文

廿五日 松苗木掘立也

廿六日

松苗木荷作、桑苗木掘立相濟、御役所にても御指紙として錢貳貫文被成下、雇共酒振舞候

廿七日

大張野之松苗木送り植付之もの迄差遣し

三万七千八百五十本 上

壹万貳千四百本 中

廿八日

同断 三万七千五百本 上

五万四千本 中

廿九日

六百本 佐藤 上

新屋開発地所見分いたし、江橋甚四郎様へ罷出候所、品々苗木取立之儀申上候

十月朔日

小野岡様苗木留

上 千五百四拾本

中 貳千六百本

下 八千三百本

八千貳百四拾本

五十目在小倉村肝煎喜左衛門分

甚藏子巳之松、鳩崎村和吉、右ハ蓮沼様にて御用使申立也

阿仁小沢田村田中藤左衛門より仕送馬貳疋着、御東町横山宇一郎殿ハ被頼御宅江罷越、苗木取立之儀指南罷越候処種々御馳走御座候

二日

林市五郎様申上候書状到着、右出苗木

一千四百拾本 極上 一五千四百六拾五本 上

一六千貳百本 中 一壹万百七拾本 下

八千貳百四拾五本

三日

蓮沼仲様被召招、種々御馳走被成下、からむし根貳駄持參被仰付

四日

宮沢村方専之助罷歸り、出苗木養蚕方分上八百本、中五百六拾本

下八百本、久三郎分上九百四拾本、中千八百本、下五千百本

五日

吉田忠右衛門大坂出立ニ付見送りとして新川迄罷越餞別いたし、夜中相成管生様へ搗餅御振舞罷越沢山ニ喰申候

六日 御役所詰

七日

同小室宮内様へ掲餅御振舞ニ而罷越候、大張野松植立もの共帰ル

貳万千貳百八拾五本 中
老万四千六百八拾五本 下

八日

同大雪ニて体、畑方共一統出立、振舞餅ニ而長屋へ罷出ル、江橋甚四郎様より仰ニ而、漆苗木取ニ付習度由ニ而石川民治、鈴木祐藏兩人菓子壺箱到来

秋田久保田馬宿泊附

船ヶ沢 惣左衛門

大曲村 文五郎

横手町御日市 喜左衛門

横堀村 宅右衛門

中田村 市郎兵衛

新庄 勘右衛門

尾花沢 弥九郎

天童 惣太

山形ノ善助ニ而手判取処也

九日

喜右衛門米沢へ出足、馬式疋為引、雑用金壺式分渡し五時出立

十日

御役所詰

十一日

御役所詰小室宮内様江振舞ニ而罷越

十二日

御役所詰

十三日

出足之義相濟、百兩分元利指取、御合力壺兩式分、路用式兩ハ能代盜難ニ付、御合力ノ百式拾式兩式分請取、又百兩式分差上置申候

十五日

亀ノ丁様へ御礼罷出候、長五郎より苗木調書附也

六万六千三百四拾五本

内三万三百七拾五本

上

夜中御振舞ニ而御料理被成下、其上品々拝領物被成下、三ヶ年中首尾能相勤、一先ツ御暇乞仕候処、明年ニ二ヶ年御頼之義被仰付、右之訳合江戸御留主居方裏方被仰立候御事御座候

十六日

御役所御役前秋保龍藏様江暇乞して役所之御手代中定雇共江暇乞いたし候処、都合式拾人余見送ニ而門外迄出ル、是方何も江暇して返し候処、畑方定抱拾三人之者共牛嶋茶屋ニて酒肴催して馳走いたし、是方替々色々馬乗りて金藏壺人召連出いたし、淀川村昼食、刈和野泊り

十七日

刈和野出足、六郷駅昼食して横手駅泊り、然ル処長沼五郎左衛門様見舞として御越被成、稲庭うどん一箱到来被成、則申請候

十八日

横手駅出足、湯沢駅昼食して此所方根本兔毛様、小原宇助様、林市五郎様江書状送り上院内村宿源兵衛泊り

十九日

上院内村出足之処、大雪ニ而歩夫ともハ道障ニ候、及位にて昼食して金山村ニて本陣泊り

廿日

是馬ニ而出立、新庄ニ而昼食して舟形泊り

廿一日

歩夫行候得ハ道はかとらつ、大石田駅にて昼食して村岡久右衛門江明春舟之義相談候て楯岡江戸屋与左衛門泊り

廿二日

楯岡駅方馬ニ而出立、宮崎村着候得共六田川大水ニ而越事不叶、此所泊

廿三日

水も不足相成漸く越、郡山村歩夫式人ニ而谷地村着、昼食して又歩夫式人ニて左沢駅着泊り

廿四日

左沢より馬ニて栗木沢江着、是方歩夫ニて八沼村、又歩夫ニて大舟木村着いたし候処、夜中相成、荷物僕共此処留置、我々人柄窪村罷越泊り

廿五日

大舟木方五ツ時荷物僕共柄窪江着、是方又歩夫ニて九ツ時目出度帰宅いたし候

大坂本町二丁目

扇屋治郎兵衛

京東洞院姉小路上ル

綿屋勇藏

右は問屋也

米沢下長井荒戸

大貫吉左衛門

是は荷主也

帰国ニ付御賄手形払留

十月十六日

昼食

同 壹夜分

十月十七日

昼食

淀川村

刈和野村

六郷村

同 壹夜分

横手村

十月十八日

昼食

湯沢村

同 壹夜分

上院内村

六数

(表紙)

(表紙)

天保二年七月

秋田下り二付日記

植木四郎兵衛

卯ノ七月二日朝五ツ時、我門外出足、身内見送られ僕ニ荷物せをわせ罷出、鮎貝村問屋ニ立寄て駄賃帳附、代二郎宅江寄、暇乞して舟場を越、大貫吉左衛門寄、色々語合茶を呑、問屋寄駄賃帳を附、小滝村ニて長面を付御番所江罷出て通、御判差上罷通ル
狸森村問屋昼食して僕は是より宿許江戻し、是方馬を取則乗、長谷堂村長面附、馬を取則乗り山形江七ツ半時着、然ル処馬無之ニ付無扱泊り、宿か、や、旅籠式百五拾軒也

三日

朝五ツ時山形方馬乗りて天堂着、又馬ニ乗六田着、是方楯岡着、江戸屋与左衛門処ニて昼食いたし、馬乗り古生田着、又馬乗り尾花沢仙台屋泊り、楯岡より大雨ニて夜中までふり

四日

朝雨もはれ候得共、川大水にて渡事不叶、四ツ時頃相成水も落、漸く川を越、萩野袋染屋江立寄、桑苗木頼置候分尋候処、亭主不居女房斗也、苗木一切売不申候、唯休置候と申、此辺苗木買もの無之と申、其ま、して罷通る、舟形問屋にて昼食して新庄通、金山本陣江泊り

五日

朝六ツ時出立及位着、問屋作右衛門江向矢嶋之様子相尋候処、競論ニ付江戸より役人下り、其場所惣見出張之様子ニ付罷越候而も留主にてハ不被訳儀と思ひ延引いたし、院内江越、善兵衛処ニ而昼食いたし湯沢着、宿宇吉泊り、是も養蚕屋罷越候処、御役人衆中川貞吉様、添田清右衛門様、石井貞一郎様御詰合、御手代金十郎也、去年中詰合衆御礼申上候、又桑畑之手入方次第詰合、夫より御酒被成下候ニ付御悦申上、宿江泊り休足いたしたり

六日

朝飯支度して養屋江罷出候処、未御用状不出来にて備居、漸く四ツ時迄出来、金十郎よりも書状被頼持参、宿江泊り伝馬取、是ニ乗て罷出、西馬音内城廻り村七右衛門宅江八ツ時着、然ル処七右衛門留主ニ候得共家内中打揃居候ニ付、去々年秋十月中金子三歩貸置候分返済致くれ候様申語候処、何分七右衛門留主にて致方無之ニ付、当十月中迄万吉方頼、米沢江仕送り申度由頼ニ付、任其意置候

然ルニ万吉舅之佐右衛門宅近所にて右弟之草蔵参り、私呼候ニ付罷越候処、其夜振舞之飯喰へ四方山之物語いたし七右衛門宅へ泊り休たり

七日

朝早く馬にて被送、又高尾田村養蚕屋立寄候処、林市五郎殿詰合也、苗木取之儀色々語合、おはつ婦夫病氣にて居、何かにて難義之様子相見へ申候、乍去是江呼出し候へ、一門引受ニ相成候振合ニ付、其ま、ニして一先ツ立去たり、桑苗木育方、去年よりハ一統悪き様子ニ見へ申候、此所を出立、沼館村ニ而馬を遣、角間川ニ而昼食して大曲村通り神宮寺村泊り

八日

明時出足、刈和野村ニ而馬遣、境村ニ而昼食して青 作兵衛并惣太居候由ニ付、呼て春中より一件物語いたし分れ、馬を遣て戸嶋村着、又馬を遣て久保田上野御役所七ツ時着、御役人様方御届ケ申上候処、下り遅れニ付、仕送り巢売相成由にて荷作相成、宰料御小人舟木円蔵也、当年五駄御払ニ被成下

以覚書奉願上候事

当春桑苗木拾万本御請負仕候処、苗木品送りニ付、七万本差上申度由奉願上候処、願之通被仰付七万本差上、外式万本買入仕、都合九万本差上候得共、御請負口三万本残り相成候間、此分三万本当秋御買上被成下置度奉願上候、手作分苗木七万本余御座候間、跡式御買上被成下置候ハ、疊重難有仕合奉存候、拾万本なり当秋御用御座候ハ、買入仕差上可申候

何分御買上之程被仰付被成下置候様御沙汰被下置度偏奉願上候、以上

天保二年七月十二日

養蚕御役所

七月九日

御役人衆御届ケ宅廻り

七月十日

同断

同十一日

同断

同十二日

巢売荷物米沢江仕送り、舟木円蔵殿出立

同十三日

国産苗木出来次第地方開発被成候事にて、苗木御買入御延引方被仰渡候ニ付、一先つ御受仕申候

同十四日

佐藤及兵衛様御宅江罷出、御領内在々江自分植直して代銭年割なり請取候而も差上申度旨奉願上候処、左候ハ、関喜内近日出府可致候ニ付、其内控居候様被仰付

七月十五日

休居馬市見物

同十六日

休

同十七日

休馬市見物

同十八日

休馬市見物

同十九日

休馬市見物

同廿日

同断

覚

文金七両也、拝借仕申候、右者馬式疋買入国元江仕送り申処、馬代拝借仕候得ハ、右馬引戻り渡、則御返済可仕申候間、願之通拝借被仰付被成下置度奉願上候、以上

天保二年七月廿日

名前 印

河村多一郎殿

廿一日 同断

廿二日 同断

廿三日

馬市にて式拾五貫百文ニ而麻毛壹疋買入置
ノ三兩三分と百弍文也

廿四日

馬市にて拾六貫、壹疋買入、馬引共弍両壹歩弍朱と百七拾文也

廿五日

御役所詰

廿六日

同断、馬出足之処、雇人急病ニ付延引

廿七日

同断、漸馬出立相成候、馬引御舟町七五郎也、在所へ之用向品頼被下候

廿八日

関喜内旅宿参り、苗木弘方色々語合、夫より願書調ニ取懸候

廿九日

願書調留
以書附奉願上候事

一桑苗木明春も御買上被成下置度旨奉願上候処、御国産之苗木ニ而為候義ニ付御延引被仰付奉畏候、乍然是迄御買上被仰付候、続又々御負も可有之哉と存、国元ニ而私仕立之苗木七万本余御座候間、御領中御引配なり御買上被仰付被成下置度奉願上候

然上者悉皆雜用私方ニ而引受、苗木老本拾文、兩替米沢相場ニ而御代錢五ヶ年割ニ而苗木老本一ヶ年式文宛當を以四ヶ年拝領仕、残一ヶ年分獻納仕度奉願上候、本數之義ハ私所持之内何万本初仰付次第差上可申候間、年々盆前御代錢御調御渡被下度候
右之趣宜敷御沙汰被成下置度偏奉願上候、以上

天保二年七月

植木四郎兵衛

養蚕御役所

以別紙奉願上候事

一願之通苗木御買上被成下置候、宰料老老人拝借被仰付被下置度候、尤本書奉申上通候

右料等之義、私悉皆引受取計意可申候、且苗木仕出之砌不少出銀候間、明春七月御渡之分迄宰料米沢江參着之節御渡被成下置度奉願上候
明後年方御注文被仰付候共、前金不奉願上、明春年斗御貸附被成下置度奉願上候、右兩様とも宜敷御取成被下置度偏奉願上候存候、以上

天保二年七月

植木四郎兵衛

養蚕御役所

右は小室宮内様江差出し候処、則御取次被成下候

八月朔日 御用御礼申上候

金 易右衛門様、成田忠玉郎様、伊藤及兵衛様

小室宮内様、菅生万藏様

五軒江罷出候

同日 御調ニ而同断

三日 同断

四日 関喜内を以奉願上候処書付を以

覚

一桑苗木御買上被成下置度之旨関喜内を以注進奉願上候処□□□□□□□□
上候□□□□□□御買上被成下置候様被仰付奉畏在候、本書願之通金兩替之儀ハ米沢相場ニ而御渡可被下候

一苗木本役之義ハ本書願ニハ七万本申上候得とも、上中下取合事にて申上候、上中計被仰付候得ハ五万本位引なして有御座間敷、何万本なり帰国之後治定申上度候

一宰料拝借之義ハ誰人御借付被成下候哉、御名前承度候、道中筋貸錢談合申度候

御小人之内差ても初仰付候ハ、政八郎を以奉願上候、去春中米沢江御越被成候ハハ万事御安内之趣奉願上候

一苗木上中本図之義ハ、木手本を以相定可被下置候
右之趣宜敷御沙汰被下置度偏奉願上候、以上

天保二年八月

植木四郎兵衛

御書取を以被仰渡書付留

覚

兼而取立置候桑苗木七万本売上度段願申立候得共、追々取立候苗木有之ニ付、一応及御断候処、領民共江五ヶ年割拝借被仰付、四ヶ年割之分代錢請取之跡一ヶ年分ハ申請候ニ不相及候旨申出二候、七万本之苗木數百人江貸渡候儀ニ候得は、五ヶ年中之取立方容易之御世話にも無之、決而上納方係り合等無之とハ難申、右様之節者皆以償御渡之外無之候得共、養蚕之義領民共江専ら取勸中ニ候得ハ、右御世話又は御損分等之儀ハ無御抱事二候、依之上木拾文、中木八文之直段を以御買入可被成、下木之分ハ一匁買入方御断致候、代錢之儀者年々十一月中可被相渡候、右二候ハ、約定之趣書取を以具さ可申出、此方も御約定書可被渡置

候、以上

八月

八月五日より申上候色々御沙汰相及申候

六日 同断 七日 同断 八日 同断

九日

米沢表皆にて御取扱被成かたき趣被仰付、依之願申下ケ致候、御書取も返納致候

是方矢嶋江心さし秋田御役人様方江暇乞相廻候、益田様ニ而餅御振ひ被成下、其上塩引、真綿拝領被仰付、金様ニても御振ひ被成下候、矢嶋へ先触差出し

十日

湊町古川屋六郎右衛門桑畑見分致くれ候様被頼、良蔵同道ニ而罷越、右畑分いたし、巳之助不仕末之儀申訊致候、昼食痛入候、御馳走罷成、七時半時役所帰ル、其夜御役所振舞にて料理屋梅正江御手代一統罷出ル

十一日

矢嶋江出足ニ付、小介川治郎右衛門江書状、佐藤与吉郎様方受取出足之處、御手代畑方一統都合拾八人、新屋村迄壱里処見被送、酒重肴持同所問屋座敷にて種々御馳走罷成、暇乞難申候

十一日

石堂ニ泊り

十二日

本庄通して矢嶋城下迄行、道筋山内にて難義成所なり、此日大雨にて別而難儀なり、宿田中町大和屋善右衛門泊り、書状到着也

十三日

九ツ時罷出候様被仰付即罷出候処、色々御咄申上候処、御屋敷中見分被仰付、見おわつて御酒御賄ひ被成下、又翌日畑地見分之段被仰含、五ツ時過て宿帰候

十四日

小介川様御家来壱人、三人同道にて畑地見分致候処、人參畑相成候場所壱反歩有之、夫より川筋下りやなは五六ヶ所見分いたし、戸板村肝煎江立寄昼食致罷帰り御酒御振舞被成下

十五日

朝早く小介川様昨日御礼出立之御届ケ申上、馬を次て出足ス、此筋石高く一円登りなり、大難義なり、馬次も不叶不自由成ル所也、□□子村御本陣泊り

十六日

朝早く馬を次出、新庄方舟形、名木沢、尾花沢、此所馬市にて駄馬百疋斗有、馬売買見物して泊り

十八日

尾花沢出立、古生田、楯岡、六田、天童、山形、長谷堂迄馬を次て着、同所問屋江泊ル

十九日

長谷堂方荒戸迄通し馬を雇九ツ時着、同所方通馬を雇七ツ時着毛いたし、家内目出度祝ひたり
(裏表紙)

(以下次号)